

開発のための新しい資金動員に関する有識者会議 第3回会合 議事概要（委員からの主な発言）

（1）総論

- 提言では、本会議で議論してきた ODA とサステナブルファイナンスが目指す理念や哲学、価値等を冒頭で述べるべき。その上で両者の接続領域を広げ、共有価値の実現のための協働・共創を加速すべく、制度改善について方向性の軸（方針）となる考えを記載し、具体的な施策へと繋げていくべきではないか。タイトルも魅力的なものをつけるべき。
- 開発協力関係者だけではなくサステナブルファイナンス関係者の関心も得られるよう、**本件提言が開発分野だけではなく、サステナブルファイナンスや日本の経済界全体に関わるものであるという共感が得られるようなメッセージ**が大事。
- 成長と分配の好循環のグローバル展開を実現するとともに、日本社会への還流にも重点を置くべき。
- 日本と途上国、政府と民間が共創しながら取り組んでいくことで経済社会課題が解決できる。**経済社会課題の解決の価値が必ずしも経済的価値に直結する訳ではないため、民間の視点からの投資だけでは対応しきれない部分があり、そこにこそ ODA が果たす役割がある**のではないかと。民間視点で利益を出す事業が社会的課題解決にもつながる、というサイクルだけではなく、社会的課題解決につながる事業がビジネスとしてスケールしていく、という方向性も重要。従来のような開発モデルでは解決できないような問題を解決するためのシステムチェンジに向けて、ODA と民間が組むことに価値がある。

（2）各論

- 具体的な方策を進めるにあたって「人」が重要であり、人材確保及びその人材が活躍できるような体制整備等も記載すべきではないか。
- 他省庁の取組との連携も念頭に置いて記載してはどうか。かかる連携に

においては、OOFによる民間資金動員も含めて、オールジャパンで取り組んでいくべき。

- これまで議論した方策案を元に具体的な記載を膨らませ、読み手にとってイメージしやすく、実効性のある内容とすべきではないか。

(3) 有識者会議後のフォローアップ

- 本会議の終了後も、議論した結果を元に官民で緩やかな連携ができるような場や、ムーブメント作りができるような発表の場があってもいいのではないか。
- 提言を踏まえた具体的な施策を政府内でスピード感を持って検討してほしい。